

「地域とは、自然生態系の特徴を共有する（例えば水路などで繋がった）複数の村や町の連続体である」といわれます。

現在、阿知須縄田地区の民家再生では地域固有の景観要素である居蔵造の古民家（旧中川邸＝廻船問屋）と、路地を形成する様々な塀（土塀、レンガ塀、石塀、板塀）の修復をお手伝いしています。棟梁はじめ個性の強い地元の職人さん達と真剣に修復作業を進めていく過程で本物志向（復元）が芽生え、地域固有の大切なものを残したいという気持ちが関係者全員に共有されて、銭金を超越した仕事の内容に変貌しています。そして、この様子を日々見ておられる路地繋がりの方々が同様の修復を具体的に検討されるようになりました。

また、旧中川邸の庭にある独特の形式をもつ池は、瀬戸内海から井関川そして水路を経て物資が運ばれた船着場ではないかという仮説から、阿知須地区の景観は「居蔵造を路地と水路で繋いだ潤いのある歴史景観のまち」へとイメージが膨らんできました。

そこでサポーターの皆さん、この地域の景観形成の輪に加わってみませんか。例えば、路地の角にある地元の海老の天婦羅を添えた海鼠壁の蕎麦屋を、地元内外の人々の交流の場とするのは如何でしょうか。